



共 創



NO 5

令和2年8月4日発行

「希望の力」～東京五輪開幕1年前イベント 池江璃花子さんのメッセージより～

2020年7月24日、本当なら、この日世界中からアスリートたちが集まり、世界中の人たちの大声援のもと、東京オリンピックが開幕するはずでした。しかし、新型コロナウイルスの世界的流行により、オリンピックは1年間延期になりました。我が国は勿論、世界中で感染者が増え続ける現状を考えれば、当たり前前の日常が奪われたままの生活に、オリンピックどころではないというのが当然のこととも思えます。

そんな中、国立競技場で東京五輪開幕1年前イベントが行われ、競泳選手の池江璃花子が、聖火が灯るランタンを手に、メッセージを発信しました。（その要旨を紹介します。）

オリンピックやパラリンピックは、アスリートにとって特別なものです。その大きな目標が目の前から突然消えてしまったことは、言葉にできないほどの喪失感だったと思います。

私も、白血病という大きな病気をしたからよくわかります。思っていた未来が、一夜にして別世界のように変わる。それはとてもきつい経験でした。

救いになったのは、たくさんの医療従事者の方に支えて頂いたことです。しかも今は、コロナという新たな敵とも戦っている。本当に感謝しかありません。

スポーツは、人に勇気や絆をくれるものだと思います。私も闘病中、仲間のアスリートの頑張りにたくさんの力をもらいました。

世の中がこんな大変な時期に、スポーツの話をすること自体、否定的な声があるのもよくわかります。ただ、逆境から這い上がっていく時にはどうしても、「希望の力」が必要です。希望が遠くに輝いているからこそ、どんなにつらくても前を向いて頑張れる。私の場合、「もう一度プールに戻りたい。」その一心でつらい治療を乗り越えることができました。

世界中のアスリートと、すべての人のために。1年後の今日、この場所で、「希望の炎」が輝いてほしいと思います。

新型コロナウイルス感染が広がり、不安が覆う今だからこそ、私たちに必要なものは、池江さんが言う「希望の力」です。しかし、この「希望の力」は、誰かが与えてくれるものではありません。自分自身で探し出す、あるいはつくり出すものではないでしょうか。

先日、島田市教育委員から「毎日の生活を積極的に楽しんでみましょう」という提言が配布されました。そこに書かれていた「興味のあること」「楽しいこと」「面白いもの」「明日したいこと」を想像し、考え、実際にやってみることは、子どもにとって、「希望」を自分で見つけ、今日を、そして明日を楽しくしていく力になるはずです。

8月8日より夏休みが始まります。新型コロナウイルスの影響で、16日間という短い夏休み、しかも、三密を避ける、不要不急の外出を自粛するなど、制約の多い休みです。それでも、この夏休みにしかできないことがあります。遠くへ出かけなくても、家族で大切な思い出をつくることもできます。「夏休みに～をしてみたい。」「明日は～をするぞ。」子どもたちに、色々な楽しみを自分で探し出す「希望の夏休み」にしてほしいと願っています。

（学校長 小林 正宣）